

関東大震災から100年の節目の日… ～自分で考えて行動し、提案できる2学期にしよう～

2023.9.1 校長 西谷 秀幸

長い夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。今年は暑い日が続きましたが、皆さんにとって、どんな夏休みだったでしょうか。

「楽しいことばかりだった」という人？「楽しいこともあったけど、嫌なことやつまらないこともあった」という人？「嫌なことやつまらないことが多かった」という人？

また、1学期の終業式に「夏休みにしかできないことを見付けてチャレンジしてみよう」と話しましたが、皆さんはどんなチャレンジをしましたか。

校長先生は、こんなプログラミングのロボットを作りました。明日のFLL活動でメンバーに自慢をしたいと思っています。興味のある人は校長室に見に来てください。

皆さんも、「夏休みにチャレンジしたこと」を先生たちに教えてくださいね。

そんな夏休みも昨日で終わりです。今日から2学期です。1日も早く、学校のリズムに戻しましょう。

さて、今日、9月1日は「防災の日」といって、「地震などの災害にしっかりと備えよう」という日です。

なぜ、9月1日が「防災の日」になったかということ、ちょうど100年前の今日、1923年9月1日に、東京を中心に大きな地震が発生して、10万人以上の方が亡くなったからです。これを「関東大震災」と言います。

地震が起きた時刻は、お昼前の11時58分でした。100年前の9月1日も、今日のように2学期の始業式の日でしたが、子供たちはすでに家に帰っていて、家の方がお昼御飯の準備をしていました。

そのため、地震のあと、たくさんの場所で火事が発生しました。なぜかというと、100年前は、ほとんど家が木でできていて、今のように電気で御飯を炊く炊飯器もなかったの、地震が起きた11時58分には、多くの家で薪に火をつけて、かまどで御飯を炊いていたため、その火が家に燃え移ってしまったのです。



火事は150か所くらいの場所から起きて、東京の町中は、地震でつぶれた家と火事で大変なことになりました。さらに、その日の東京は、台風の影響で強い風が吹いていたので、「火災旋風」という、火が強い風と一緒に竜巻のように吹きつけてきました。火事は、なんと3日間も続き、海のそばでは津波も発生して、10万人以上の方が亡くなったり、行方不明になったりしました。

その関東大震災から、今日はちょうど100年という節目の日であり、今年は、関東大震災から100年という節目の年になります。前にも話しましたが、東京ではこれから30年の間に大きな地震が起きる確率が70%、つまり、皆さんが生きているうちにほぼ間違いなく起きると言われています。だから、防災の日である今日、成丘小では4時間目に避難訓練をして、コース別にまとまって帰ります。

さて、今日の避難訓練のときには、先生たちがそばにいますが、いつも大人がそばにいるとは限りません。だから、自分の命を守るため「何をしたらいいのか」「何をしてはいけないのか」、大人に言われなくても自分で考えて行動することが大切です。

でも、これって避難訓練だけでなく、学校生活すべてに当てはまりますね。

ですから、1学期よりも、もっと楽しい2学期にするために、「先生、〇〇してもいいですか」「次は何をやるのですか」なんて聞くのではなく、「今、自分は何をしたらいいのか」「何をしてはいけないのか」、大人に言われなくても自分で考えて行動できるようになりましょう。

そして、「先生、私は、学校生活をもっと楽しくするために、こういうのを考えてみました」なんて、より良くするために考えたことを大人に提案できるようになりましょう。

今年の2学期は、関東大震災から100年という節目の「防災の日」からスタートです。自分の命を自分で守るために、自分で考えて行動できるようになること、そして、自分たちの力でクラスや学校生活をもっと楽しくするためにどんなことができるか考えて行動し、「先生、こんなことを考えてみました」と大人に提案できるようになりましょう。

これで始業式の話が終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

長い夏休みが終わり、今日から2学期がスタートします。皆さん、ゆっくり心と体を休めて充電することができたでしょうか。

準備万端だとは思いますが、急加速・急発進は禁物です。最初の1週間「白銀の3日間」の予定をしっかりと立て、1学期に作った学級や授業でのシステムを確認しながら丁寧に進めてください。その際、作ってきたシステムがほころびているときにはすぐに修正する必要があります。「あとでもいいや、来週から修正すれば…」、これでは確実に崩れてしまいます。「修正はすぐに実行!」、これが2学期最初の原則です。その修正がうまくいかないときには、学年で協力して対処していきましょう。管理職への相談も含め、くれぐれも自分だけで抱え込むことがないようにしてください。

特に、生活規律と学習規律の確立を最重点にしましょう。「朝の会・掃除・給食・帰り会」の4つを丁寧に指導することが大切です。朝の会・帰りの会で、時間が長くなるのはNGです。短時間でテンポ良く進めていくと、生活規律の確立がスムーズに確率していきます。心掛けてください。

さて、今年の9月1日は、関東大震災から100年という節目の日になります。そこで、2学期始業式では「関東大震災」について話をしました。各学級でも、防災ノートなどを活用して、今日または来週に関東大震災について、話題にしてください。

また、始業式ということで、この2学期に頑張ってもらいたいことと関連させるために、「何をしたらいいのか」「何をしてはいけないのか」、大人に言われなくても自分で考えて行動できるようになること、大人に「〇〇していいですか」と指示を仰いで行動するのではなく、学校生活をもっと楽しくするために、「先生、こんなことを考えてみました」などと自分たちでより良くするために、考えて行動し、提案できるようになることを話しました。児童の実態に合わせて、補足などをお願いします。

ところで、オンラインではありますが、毎回お願いしているように、始業式が終わるまでに、必ず子供たちの前に立って様子を一人一人の様子をしっかりと見てください。話を聞く時間も、前方から一人一人の様子を観察してください。これは健康管理上のことはもちろんですが、「始業式の朝の顔には、その子の休み中の様子が表れる」からなのです。

その理由は、話を聞いている様子をしっかり見てみると分かります。担任と目線が合わない子、うつむき加減の子などは要チェックです。つまらない夏休みを過ごした子は話に集中せずに下を見ることが多いのです。夏休みに何かあった子は、担任と視線がなかなか合いません。ですから、始業式という短い時間に、クラスの子供たちの夏休みの様子を把握してください。

この表情は、始業式の後に消えて分からなくなると言われています。ですから、始業式の短い時間が勝負です。私たちはプロの教師ですから、教室内でどの位置で見るといいのかを考えてみてください。児童理解をする絶好のチャンスですから、みすみす逃すことのないようにお願いします。

なお、始業式前に時間がありましたら、教室に子供向けのメッセージを書いておくといいですね。長い夏休みが終わり、子供たちが教室に入ったとき、「さあ、がんばるぞ!」という気持ちになるような言葉を書いていただけると、2学期のスタートが違ってくると思います。また、始業式後の学級指導では、夏休み中の病気やけがの有無、休み中にいじめがなかったかなどを確かめておいてください。

最初の週は、頭・体・心のすべてがきついと感ずいます。やらなければならないことがたくさんありますが、私たち大人も心身ともに体調を崩さぬよう、1つ1つよろしくをお願いします。

【資料】白銀の3日間について

担任がクラスを組み立てる機会は年に3回あります。各学期のそれぞれ始めの3日間です。その最大の機会は、1学期最初の3日間（黄金の3日間）ですが、長い夏休みが終わった2学期は、休みモードから一気に学校モードへと切り替えをしなければならぬため、1学期に次いで重要です。ちなみに、この2学期始めの3日間を4月始めの「黄金の3日間」に対し「白銀の3日間」と呼びます。

「夏休みが終わった。さあ学校が始まるぞ。」という積極的な子供たち。「夏休みが終わってしまった。あ～あ、学校が始まるのか。」という消極的な子供たち。前者には学習システムの点検が、後者には学習の楽しさを味わわせることが大切です。

2学期は、一番長く学校生活が続きます。「楽しいクラス」「楽しい学校」になるように、最初の3日間でシステムを確認したり作り直したりし、ささいなことでも大いにほめて楽しいスタートをきってほしいと思います。